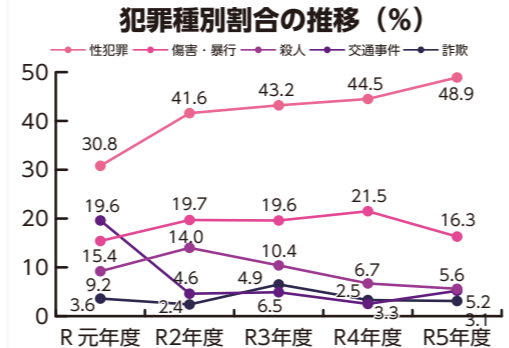
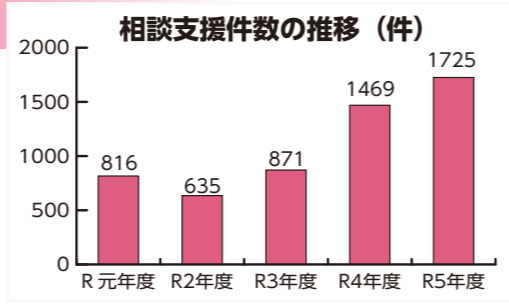


犯罪被害者を取り残さない市政を！

犯罪被害にあったかも知れない…相談できます！

横浜市犯罪被害者相談室による相談支援は、令和3年度から増え続けています。犯罪種別の割合では、**性犯罪が最も多く、また増え続けています**。令和5年度の内閣府の調査では、「無理やりに性交等をしたことがある」女性は8.1%、男性は0.7%で、**うち警察へ連絡、相談した人は、わずか1.4%、誰にも相談しなかった人は55.7%**と最も多くなっています。犯罪被害には、様々な被害がありますが、被害にあったにもかかわらず、**誰にも相談できず、ひとり思い悩む方が少なくない深刻な状況があります**。



犯罪被害者相談支援体制の改善を求めて (令和6年第3回市会定例会・市民局)

私は令和6年の議会にて、横浜市の犯罪被害者等支援事業について取り上げました。犯罪被害にあっても相談支援につながらない方が多くいること、また相談機関が多岐に渡り、何度も繰り返し辛い経験を話さなくてはならないこと、支援を受けるには、一定の要件が必要(原則被害届が警察に受理されるなど、被害が客観的に確認できる場合に限られる)等の課題を示し、**横浜市の犯罪被害者支援あり方については、より被害者に寄りそった内容に改善することを要望しました**。

犯罪被害にあわれたあなたへ(相談したい方へ)

お困りですか？

- 誰に相談していいか、わからない方
- 被害後の日常生活で困っている方
- 警察に届けられず、お悩みの方
- 知人からの被害で、お悩みの方
- 専門機関を紹介してもらいたいと、お思いの方
- こんな事を相談していいのかと、お悩みの方

ひとり悩まず相談を！

横浜市 犯罪被害者相談室
045-671-3117
9:00-17:00 (月～金)

案内チラシ **相談無料**

青葉区の皆様の声をお寄せください。

青葉区選出の市議として、青葉区の皆様の声を市政へ届け、皆様と共に青葉区の未来をより良くして参ります。また、市議として、看護師・防災士として、身近な暮らしのお困りごと等に親身に相談に応じます。

ご意見フォーム

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 在宅介護や施設入所、老後の住まい等について | <input type="checkbox"/> 危険な道路や歩道、樹木の繁茂・根上り等について |
| <input type="checkbox"/> 不登校や引きこもり、子育て・教育問題について | <input type="checkbox"/> 公園・公園遊具の安全性や施設の改善等について |
| <input type="checkbox"/> DV や虐待、依存症等こころの問題について | <input type="checkbox"/> まちの防犯や防災に対する不安や改善点について |

田中ゆきと行く市庁舎見学

YOKOHAMA

「市民の皆様が横浜市会をより身近に感じて、市政に関心をお持ちいただきたい」
「市民に開かれた市庁舎として創られた、市庁舎を皆様に活用いただきたい」
その思いから、皆様と一緒に市庁舎を巡る企画「田中ゆきと行く！横浜市庁舎見学」を開催しています。

下記の情報を、開催の1か月前までに田中ゆき事務所まで、HP・メール・お電話にてお気軽にご連絡ください。折り返し、連絡させていただきます。

- 代表者のお名前
- 開催ご希望日
- 折り返しのご連絡先
- ご参加人数 (3名様～)

田中ゆきと市庁舎見学
お申し込みはHPへ!



横浜市議員 / 看護師・防災士・博士(心身健康科学)

田中ゆき

青葉台小・桐蔭・慶應大



- プロフィール**
- 青葉区育ち、青葉台小学校
 - 桐蔭学園高等学校 / ハンドボール部
 - 慶應義塾大学商学部 / 体育会ボート部
 - 日本航空CA(客室乗務員)
 - 看護師(病院・企業・学校・保育・地域包括)
 - 桐蔭横浜大学保健室

命とところを守る市政を！

私、田中ゆきは、**看護師・防災士・博士(心身健康科学)**として、医療や介護、子育て、教育、福祉など、あらゆる生活場面で、お子さんから高齢者までが抱える困難や苦しみを目の当たりにしてきました。私はこれまでの現場経験を活かし、市民の皆様へ寄り添って、現場の声を丁寧に聞き、横浜市政に皆様の声を届け、「**命とところを守る市政**」を実現して参ります！

YES 子育てしたいまち

希望 未来を担う子ども達をともに育む

- 身近な地域に子育て支援の場、子どもの居場所の充実
- 保護者の多様な働き方を支える環境整備・人材の確保
- いじめ、不登校、虐待防止のための相談支援体制強化
- 歴史・文化・芸術・スポーツによる豊かな感性の醸成
- 安全・安心、子ども達の満足度の高い学校給食の提供

安心 人と環境にやさしいまちを次世代へ

- 子ども達がのびのび成長できる豊かな自然環境の保全
- 農業と食を大切に思う心を育む食育・地産地消の推進
- プラごみ・食ロス削減、化学物質過敏症対策への支援
- フードドライブ・フードバンク推進による食支援充実
- 地域特性を生かした再生可能エネルギー導入への支援

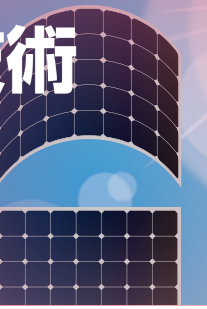
YES 住み続けたいまち

<h3>1 医療・介護・福祉の安心と充実</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域医療を支える看護・介護・福祉人材の処遇改善 ● 介護者の負担を軽減できる多様な介護サービスの提供 ● 住み慣れた地域で安心して最期まで暮らせる環境の整備 ● 24時間365日対応の救急患者受入れ体制の整備強化 ● 地域ニーズに合った医療提供体制の構築、充実・強化 	<h3>2 あらゆる世代のこころの健康増進</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● 認知症の予防と早期発見・早期治療の施策の推進 ● 自殺防止のための多様な相談窓口と相談手段の充実 ● DV・性暴力防止対策、相談支援体制の充実強化 ● ひきこもりの早期発見・支援による長期化予防体制 ● 依存症の予防・早期発見、治療・回復支援の推進
<h3>3 防災・減災・防犯で安全・安心なまちへ</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● インフラの耐震化、無電柱化、緊急輸送路の確保 ● 地域防災拠点における平常時の訓練、備蓄の充実 ● 災害拠点病院、在宅医療における非常用電源の整備 ● 建物耐震化、家具転倒防止等による在宅避難の支援 ● 防犯灯、防犯カメラの設置支援とパトロールの強化 	<h3>4 皆が生きがいを持てる健「幸」なまち</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域における活動の場の充実、多様な働き方の推進 ● ライフステージに応じた健康増進プログラムの提供 ● 暮らしを支える地域交通・移動支援サービスの充実 ● デジタル活用支援等、情報格差を解消する施策推進 ● 誰もが自分らしく活躍できる人権尊重の取組み推進

青葉区育ちの市議として 市民の皆様にお伝えしたいこと

青葉区発の新技术

ペロブスカイト太陽電池の
実用化へ向けて！



次世代エネルギーを切り拓く新技术 その優れた特徴と活用

ペロブスカイト太陽電池は、桐蔭横浜大学の宮坂力特任教授が発明した、次世代型の太陽電池です。「薄く・軽く・曲げられる」「屋内や曇り・雨天の弱い光でも発電できる」「原料の多くが国内で調達可能である」「塗って乾かす印刷技術で作製できる」など、優れた特徴があります。ペロブスカイト太陽電池の実用化により再生可能エネルギー(*)が拡大し、脱炭素社会へ向けて重要な役割を果たすことが期待されています。

議会での粘り強い提言により 横浜市の取組みが大きく前進！

青葉区発・横浜市発の貴重な新技术は、本市に開発フィールドを置いて、脱炭素化をリードしていくことが重要と考え、水道施設など公共空間を活用した実証実験や用途開発支援など、早期実用化への支援を議会にて要望してきました。2023年2月、青葉台駅にて日本初の公共空間でのペロブスカイト太陽電池の実証実験が実現しました。これを皮切りに、市庁舎アトリウムや北部第二水道センターなど市内各所の公共施設でも実験が行われ、用途開発支援のためのフォーラムも開催されるようになりました。議会での粘り強い提言や要望が、ペロブスカイト太陽電池の実用化と普及の道筋を大きく前進させました。

青葉区から世界へ 脱炭素化をリードする新技术

ペロブスカイト太陽電池は世界の脱炭素化に資する、国内外から注目を浴びている、青葉区発の貴重な新技术です。海外や他都市に先行されることなく、横浜市や青葉区に開発フィールドを置いて、積極的に実用化へ向けての機運醸成や実証実験、用途開発を支援してゆきと考えます。今後も力強く、ペロブスカイト太陽電池の実用化へ向けての本市の取組みを強化していきます。

世界の脱炭素化を推進する新技术！



再生可能 エネルギー

石油や石炭、天然ガスと言った限りある化石燃料とは異なり、太陽光・風力・水力など、枯渇しない・CO2を排出しない、環境に優しい自然エネルギー。

子どもとたばこ

子ども達をたばこの害から守る
子育てしたいまちヨコハマ



議会要望が実現！ 市内全公園が2025年4月から全面禁煙化

子ども達の利用の多い公園における、禁煙化を求める声を多く頂いて来ました。私は市民の皆様が子ども達への受動喫煙を懸念する声に加え、看護師として保育現場で経験した「たばこの誤飲の危険性」(*)といった視点も含めながら、議会にて、喫煙禁止区域の拡大や公園の全面禁煙化を要望してきました。その結果、2025年4月1日から、市が管理する全ての公園(約2,700カ所)が全面禁煙化されることとなり、違反の罰則(5万円以下の過料)も課せられることとなりました。

子ども達をたばこの害から守るために 全市的に禁煙化を！

しかし、それだけでは子ども達をたばこの害から守るには不十分です。歩きたばこによる、受動喫煙、顔面等のやけどの危険性、ポイ捨てたばこの誤飲など、街を歩くだけでもたばこによる危険があります。横浜市には、横浜駅や関内周辺など、8カ所の喫煙禁止地区がありますが、世田谷区のように区内全域を禁煙としている自治体もあります。子育てしたいまちヨコハマとして、今後は全市的に禁煙化を図っていく必要があると考え、議会において要望しています。

喫煙する人も、しない人も安心して暮らせる 喫煙対策の取組み推進

市内禁煙化を進めるにあたっては、喫煙する人の視点も重要と考えます。禁煙化により喫煙所が減ることで、喫煙者にとっては暮らしにくい環境となります。禁煙化と両輪で、喫煙する人のための指定喫煙所等の設置も重要と考えます。引き続き、喫煙する人も、しない人も、安心して暮らせる喫煙対策の取組みを進めて参ります。

たばこの誤飲

(*) 市販のたばこ1本に含まれるニコチン量は10mgから30mg。小児が誤って飲み込んだ場合の致死量(10mg~20mg)に相当するため、誤飲は命に関わる問題です。

「おひとりさま」

高齢者が取り残されず、自らの
意思を大切に生きられるよう



増加する「おひとりさま」高齢者 身寄りなし問題が深刻化

本市でも核家族化と単身化が進む中、地域のつながりが希薄化し、身近に頼れる家族や親族がない「おひとりさま」高齢者が増加しています。青葉区では65歳以上の単身世帯が全世帯の約14%を占めており、認知症や入院時の意思決定の困難、お金の管理や葬儀の対応など、命と尊厳にかかわる問題が社会問題化しています。また、地域とのつながりのない高齢者は孤立しやすく、事件や事故、災害時など取り残されてしまうおそれがあります。

身寄りのない「おひとりさま」の 命と尊厳を守る施策を！

これら現状を踏まえ、議会において、身寄りのない高齢者等に関わる施策として、本人の意思を生前に登録し、いざという時には本人の意思が実現できるよう支援する仕組みを早期に確立することを要望しました。また、災害時に自力避難が難しい単身高齢者や高齢者のみの世帯に対する「個別避難計画」の策定をスピード感を持って行うこと、合わせて福祉避難所の充実させることを求めました。

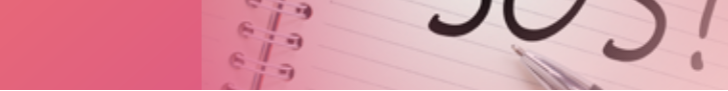
地域包括支援センター看護師としての 現場経験を活かした支援活動

私は、地域包括支援センターの看護師としての経験を活かし、国と横浜市が進めている、身寄りのない高齢者等支援事業に参加し、青葉区すすき野エリアにて、具体的な課題解決へ向けての取組みの検討を始めています。今後も看護師としての現場経験を活かして、青葉区で好事例を生み出し、「おひとりさま」高齢者が取り残されず、自らの意思を尊重しながら、安心して幸せに暮らせる横浜市を目指します。



DV・デートDV

早期発見と相談支援体制の
充実強化を！



DV・デートDVの多様な暴力とその課題

DV・デートDVは、配偶者や交際相手などからの暴力をさします。DVは、身体的暴力のほか、暴言、交友関係の制限、長期の無視などの心理的攻撃、生活費を渡さない、給料や貯金を勝手に使われる等の経済的圧迫、性行為の強要や不同意の性的画像の撮影、避妊に協力しない等の性的強要等、暴力の内容は多岐に渡っています。

DV・デートDVの大きな課題は、被害を受けている当事者がDVであることを認識しづらく、相談支援につながりにくいという点です。

被害を防ぐための取組み 啓発と教育の重要性

私は議会にて、DVは重大な人権侵害であるにも関わらず、被害者・加害者が当事者であることに気づきにくい課題を提示し、相談窓口の周知、広報啓発の強化を要望しました。特に、インターネットやSNSの低年齢化に伴い、恋愛も低年齢化しており、デートDV対策については、子ども達の発達段階に応じて、早期に行うことが重要と考えます。議会において、小学生からのデートDV教育の実施を要望しました。デートDVに関しては、大人の認知度も低いという課題があります。誰もが被害者、加害者、傍観者になりかねない状況を変えていかなければなりません。

性別を問わず相談しやすい支援体制の整備を

横浜市には、DV相談支援センターや女性福祉相談窓口がありますが、男性が相談しにくい状況があります。しかし、DV被害を受けた男性からの警察への相談は増加傾向にあり、相談のうち約3割が男性というデータもあります。(2023年、警察庁)性別にかかわらず、誰もが安心して相談支援を受けられる環境を整えることが重要です。また、インターネットやSNS等を活用し、いつでもどこでも相談できる体制を整える必要があります。引き続き、広報周知と相談支援体制の充実強化をはかり、被害の早期発見と深刻化の防止をはかります。